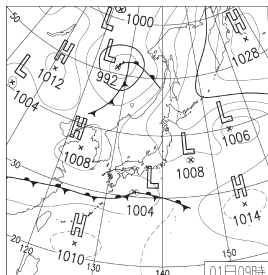


日々の天気図

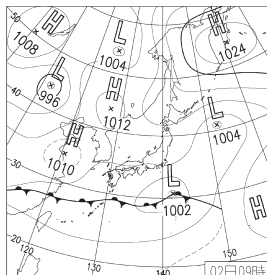
— No. 137

2013年 6月

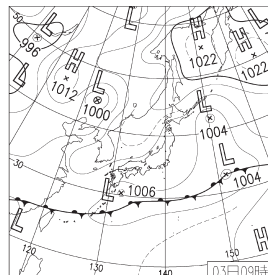
- ・12~14日、この時期としては気温の高い所が多く、300地点以上で真夏日、13日には33地点で猛暑日。
- ・6月の月降水量は西日本太平洋側でかなり多かった一方、北日本ではかなり少なかった。深浦(青森県)では年間を通じて月降水量の少ない方からの1位を更新。
(気象庁予報部予報課)



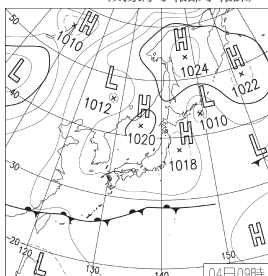
1日(土)南と北に高温注意情報
梅雨前線が日本の南に停滞、西日本は梅雨前線や気圧の谷の影響で雨。東~北日本は晴れて日中気温上昇。沖縄県八重山地方と北海道宗谷地方に今年初の高温注意情報を発表。



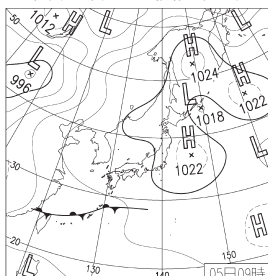
2日(日)九州・四国で雨
梅雨前線に沿う帯状の雲域が華南から日本の南へ連なり、九州・四国で雨。北海道オホーツク海側はカムチャツカ半島付近の高気圧から冷気が流入し日中気温が10°C以下に下降。



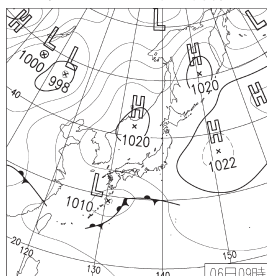
3日(月)オホーツク海側で低温
梅雨前線が沖縄から日本の南に停滞。西日本太平洋側や沖縄・奄美で曇りや雨。本州は概ね晴れ。北海道は曇り。最高気温は北海道網走市で平年より9.1°C低い7.2°C、4月上旬並。



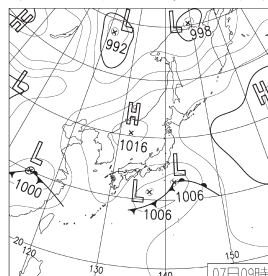
4日(火)九州~東北は晴れ
沖縄は梅雨前線の影響で曇りや雨、高気圧に覆われて九州~東北は晴れ。北海道オホーツク海側は冷たく湿った気流の影響で曇りや雨。沖縄県渡嘉敷村渡嘉敷島で63.5 mm/1hの雨。



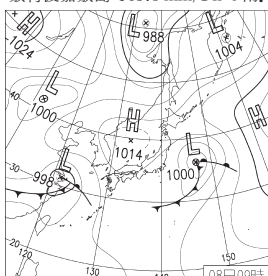
5日(水)西~東日本で晴天続く
梅雨前線は沖縄・奄美から日本の南に停滞。前線に近い沖縄県新石垣空港で49 mm/1hの雨。西日本~東日本は概ね晴れて気温上昇。神戸市でシオカラトンボ初見。



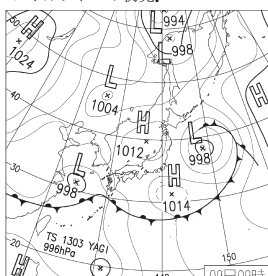
6日(木)太平洋側で曇り空
前線の北上に伴い西日本~東日本の太平洋側で曇りや雨。午後は大気の状態が不安定となり、本州山沿いの広い範囲で雷雲による局地的な雨。長野県野沢温泉で42.5 mm/1hの雨。



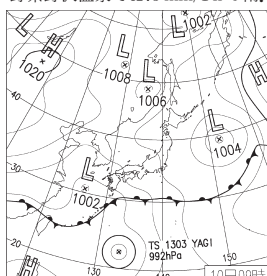
7日(金)本州で雷雨
寒気を持った気圧の谷の影響で、東海~東北の山沿いを中心に雨や雷。東日本太平洋側の沿岸部では低気圧の影響で雨。広島市でアジサイ開花。新潟県で震度4。



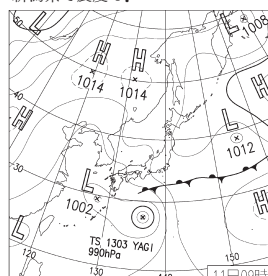
8日(土)台風第3号発生
沖縄~九州で曇り、東日本~東北で午前中曇りや雨。新潟県魚沼市小出で60.5 mm/1h、観測史上1位の記録更新。フィリピンの東で台風第3号発生。和歌山県で震度4が2回。



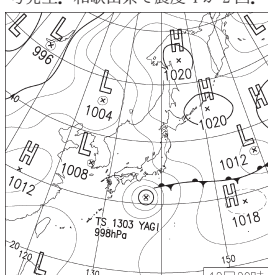
9日(日)種子島・屋久島で大雨
梅雨前線と低気圧の影響により沖縄・奄美、西日本で雨。鹿児島県種子島・屋久島地方は大雨となり、屋久島町尾之間で72 mm/1h、屋久島町小瀬田で日降水量339 mm。



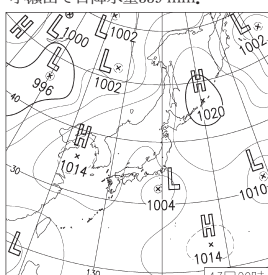
10日(月)台風 日本の南を北上
本州の南の梅雨前線がやや北上、西日本~東日本の太平洋側で曇り、九州では雨の所も。北日本はよく晴れて各地で真夏日、秋田県大館の最高気温は平年比+9.3°Cの33.2°C。



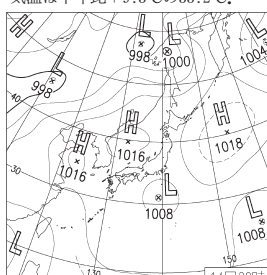
11日(火)梅雨前線活発化
台風第3号の北上に伴って梅雨前線の活動が活発になり、西~東日本の太平洋側は雨。北陸~東北の日本海側や北海道内陸部は晴れて気温が上昇し、最高気温が真夏並の地点も。



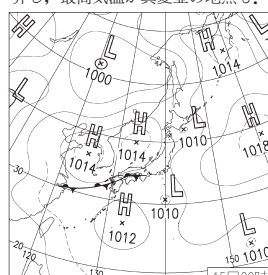
12日(水)台風は温帯低気圧化
台風第3号は日本の南海上で停滞し15時に温帯低気圧に。梅雨前線の影響で東海~関東は断続的に雨。日本海側は晴れて、西日本と北陸中心に10地点で6月の最高気温1位を更新。



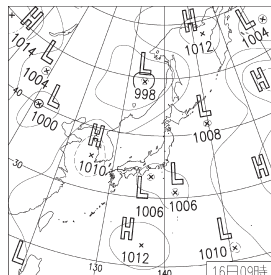
13日(木)西日本・東海で猛暑日
東日本太平洋側で曇りや雨。他は概ね晴れて昇温。静岡県伊豆市天城山で日降水量230.5 mm、西日本~東北の56地点で6月の最高気温1位更新。大阪府豊中では37.9°C平年比+10.2°C。



14日(金)沖縄 梅雨明け発表
関東は南海上の低気圧の影響で曇りや雨。西日本ははじめ晴れて暑かったが、九州や中国地方では気圧の谷の接近で夜には雨。大阪は、6月では初となる2日連続の猛暑日。

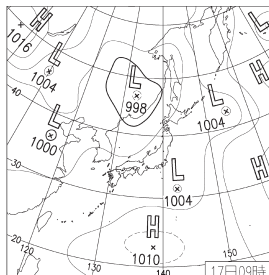


15日(土)梅雨前線南下
梅雨前線が日本付近を南下、前線通過時に関東北部や福島県で非常に激しい雨。群馬県桐生で53.5 mm/1h、6月の1位を更新。晴れた沖縄と薄日が射した関東を中心に真夏日。



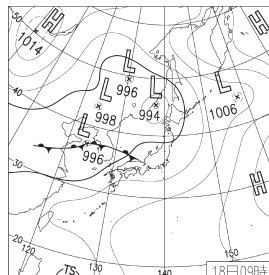
16日(日)西日本は晴れ

高気圧に覆われた西日本は晴れ、沖縄・奄美は局地的な雨。鹿児島県伊仙で54 mm/1h。雨となった関東や東北太平洋側は日中の気温上がらず、最高気温は平年並以下。



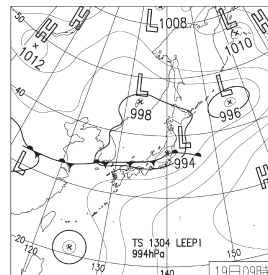
17日(月)西～東日本で気温上昇

沿海州の低気圧が東進、北日本は天気下り坂。西～東日本は広範囲で晴れて気温上昇。愛媛県愛南町御荘の最高気温33.3℃は6月の1位。全国の約3割にあたる305地点で真夏日。



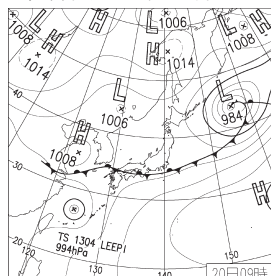
18日(火)北陸、東北梅雨入り発表

梅雨前線が次第に本州にのび、西日本～北日本の広い範囲で曇りや雨。北陸・東北南部・東北北部で梅雨入りを発表。フィリピンの東海上で台風第4号が発生。



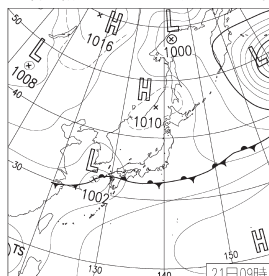
19日(水)梅雨前線の活動活発

梅雨前線が停滞し、全般に曇りや雨。九州北部・中国・北陸を中心に大雨。山口県萩市須佐で日降水量251.5 mm。台風第4号は沖縄の南を北上し先島諸島に接近。



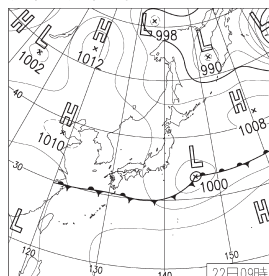
20日(木)台風、宮古島付近を通過

台風第4号と梅雨前線により沖縄県石垣島地方と西日本で大雨。新石垣空港で84.5 mm/1h。高知県馬路村魚梁瀬で日降水量343.5 mm。沖縄県下地島空港で最大瞬間風速28.8 m/s。



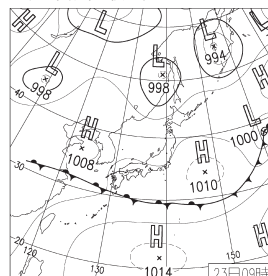
21日(金)台風第5号発生

西～東日本は梅雨前線による雨が持続。台風第4号は九州西方海上で温帯低気圧となり梅雨前線と一体化。奄美大島近海で最大震度4の地震発生。南シナ海で台風第5号発生。



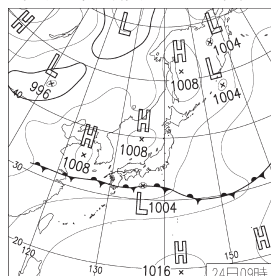
22日(土)気圧の谷通過で雷雨

上空の気圧の谷の通過で、東日本～北日本の山沿いを中心に局地的な雨や雷。梅雨前線が種子島・屋久島付近に停滞し、奄美～九州、四国は雨。甲府市でニニイゼミ初鳴。



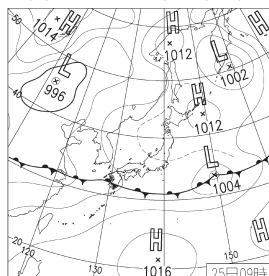
23日(日)西日本で雨

梅雨前線が停滞する西日本では、曇りや雨。東日本～北日本は概ね晴れたが、午後は関東で大気の状態が不安定となり所々で雨。沖縄・奄美は高気圧に覆われて晴れ。



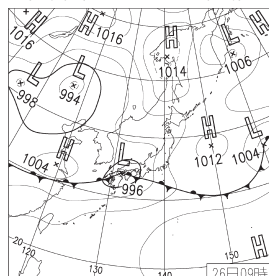
24日(月)梅雨前線が九州に停滞

梅雨前線が停滞し九州南部を中心に雨。北陸から関東東部・東北は概ね晴れたが各地で雷雨。北海道のオホーツク海側は気温が低く曇りや雨。沖縄・奄美は高気圧に覆われ晴れ。



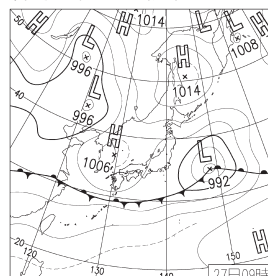
25日(火)各地で激しい雨

九州南部で梅雨前線活動が活発、大雨持続。鹿児島県鹿屋市吉ヶ別府で日降水量186 mm。東日本～東北は大気の状態が不安定。千葉県船橋の39.5 mm/1hは6月の1位記録を更新。



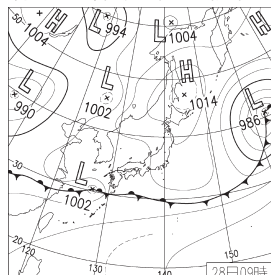
26日(水)西日本 非常に激しい雨

梅雨前線が通過し西日本～東日本で雨。九州や近畿の太平洋側は非常に激しい雨。鹿児島県伊佐市大口で6月の1位記録を更新する60 mm/1h。和歌山県新宮で日降水量280.5 mm。



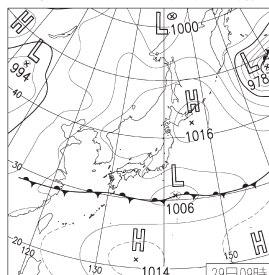
27日(木)局地的な雷雨

梅雨前線上の低気圧が関東の東に抜け、東日本を中心に晴れ間広がる。奄美・東海・東北で雷雨となり、三重県紀北町紀伊長島では68 mm/1hの非常に激しい雨。栃木県で震度4。



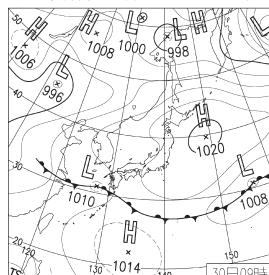
28日(金)奄美地方で大雨

オホーツク海高気圧からの冷気流入により、北日本太平洋側は最高気温が4月並。梅雨前線の影響により鹿児島県十島村中之島で74.5 mm/1hの非常に激しい雨。台風第6号発生。



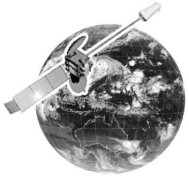
29日(土)東北太平洋側 低温持続

北日本は晴れたが、東北太平洋側は曇りや雨で最高気温が4～5月並。梅雨前線の影響を受けた九州は雨で、四国や近畿南部も午前中まで雨残る。沖縄・奄美は晴れて真夏日に。



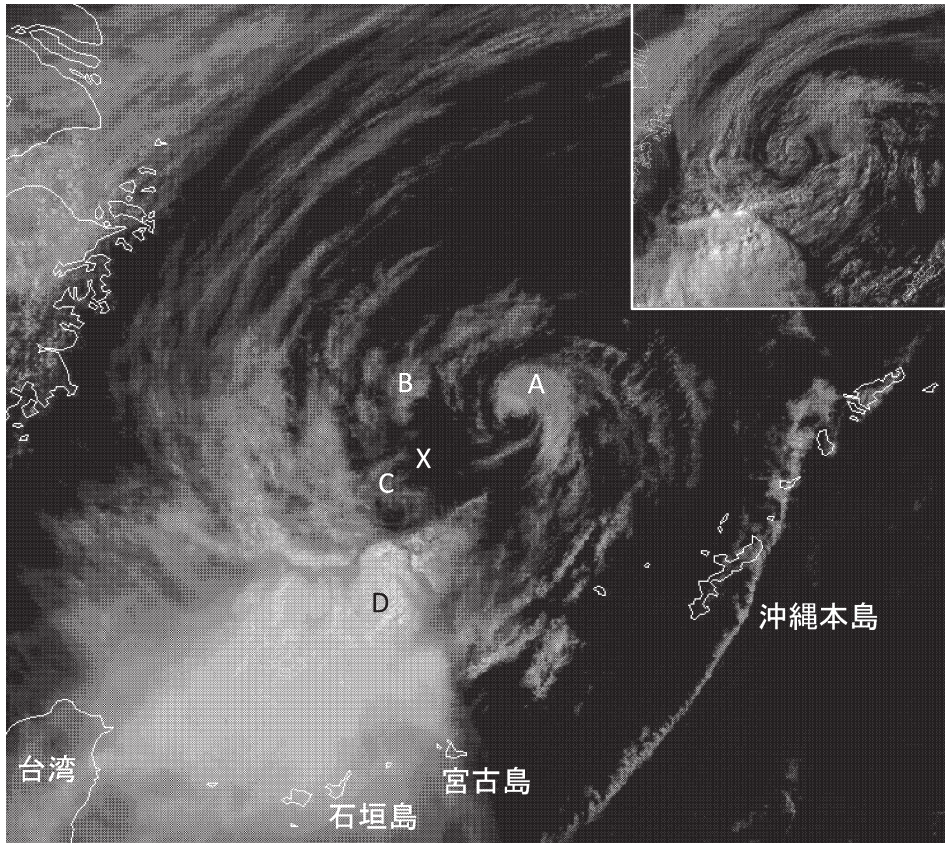
30日(日)九州で激しい雨

東～北日本は東北太平洋側を除き概ね晴れ。近畿・中国では晴れや曇り。九州・四国では雨や曇り。沖縄は晴れて連日最高・最低気温共真夏並。長崎県福江空港で43 mm/1hの雨。



今月のひまわり画像—2013年6月

台風第4号の中心付近に出現した複数の下層渦



第1図 2013年6月20日12時（日本時間）及び17時（右上）の可視画像（記号については本文参照）。

第1図は、台風第4号が東シナ海を北上していた2013年6月20日12時（日本時間）の可視画像である。この時刻の台風を中心位置は、図中の×付近にあったが、その周りには3つの小さな下層渦（図中A～C）を確認できる。また、台風中心の南側には、発達した積乱雲域（図中D）が見られる。台風第4号による強風の被害はほとんどなかったが、この雲域の影響で沖縄県石垣市川平では、20日10時までの24時間で344.0 mmの大雨を観測した。

台風第4号が、宮古島付近を通過した直後の20日03時頃から、台風中心の北東側にメソスケールの下層渦が見え始め、同日09時になると上述の3つの下層渦が明瞭化した。これらの下層渦は、台風中心を取り巻く

ように反時計回りに移動し、同日17時（第1図右上）には下層渦Aのみが残る状況となった。その後、台風はさらに北上を続け、21日09時に九州の西海上で温帯低気圧に変わった。

台風目の中にスケールの小さな下層渦が複数見られることは、紀伊半島に記録的な大雨をもたらした2011年の第12号の例のように時折ある。また、台風中心の下層の低気圧性循環と中心付近の積乱雲域が離れ、1つの下層渦が取り残されることもしばしば見られる。しかし、今回のように複数の渦が中心の周りに出現するのはかなり珍しい。

（気象庁予報部予報課 河野麻由可）